



プロ選手になりたいー

県内2人目となる日本女子プロ野球
リーグのトライアウトに合格

村田 詩歩 さん

1995年7月3日小林市生まれ。細野小、細野中出身。小林西高校3年生。女子ソフトボール部に所属し、レギュラーで活躍。今年のインターハイでは県勢初となる準優勝を果たした。

「早くプロのマウンドに立ちたい」

県内から二人目となる女子プロ野球選手が誕生した。村田詩歩さん18歳。小林西高校の3年生だ。7月に行われた日本女子プロ野球リーグの合同トライアウトに見事合格。大好きな野球ができることに胸をときめかせている。

白球を追いつけた日々

村田さんが野球を始めたのは小学校2年生のとき。少年野球でプレーする兄の影響だった。ポジションは投手。女子選手は彼女だけだったが、三振を奪う快感とチームを勝利に導く投球

にやりがいを感じ、マウンドに立ち続けた。中学生になっても野球部に入部。白球を追いつけ、野球を楽しんだ。

かけがえない恩師と仲間

高校生でも野球を続けたかったが、高校では試合に男子に混ざって女子選手は出場できない。そこに、西高ソフト部の黒木秀美監督から誘いを受けた。入部後は、ボールの違いもあって戸惑いがあったが、次第にソフトボールの楽しさを知り、熱心に練習した。監督は、彼女の肩の強さを見てキャッチャーに抜擢。また、副キャプテンを務め、3年の最後のインターハイ

トライアウトで躍動

そのインターハイの少し前、黒木監督が村田さんに女子プロ野球のトライアウトの受験を勧めた。黒木監督は、彼女がバッグにいっ

も野球ボールを忍ばせていたことを知っていた。また、ソフトボールの遠投63メートル強肩と、マウンドから投げたボールの勢いから、合格する可能性を感じたからだ。彼女の両親も「やりたいことをやればいい」と送り出してくれ、受験を決めた。

トライアウトの会場は兵庫県神戸市。全国から72人が集まった。1日目は、50メートル走や遠投、ノック。そして2日目は、プロの選手との試合が行われた。彼女は投手でマウンドに上がる。「緊張したけど、それより久しぶりに投げられる喜びが大きかった」とマウンドで躍動。直球の球速は、114キロを計測した。2回を投げ、打たれたヒットは1本。会心の投球だった。そして、10月になり、希望の知らせが来た。合格を告げられ、再び大好きな野球ができることに飛び上がった。ちなみに、このトライアウトの合格者は6人。合格することが、いか

に難しいかが分かる。

野球ができる喜びを胸に

村田さんは現在、後輩の練習を手伝いながら、走り込みや筋力トレーニングなどで体づくりをしている。「不安はあるけど、大好きな野球ができる。両親や、これまで支えてくれた皆さんに感謝してプレーしたい」と話してくれた。黒木監督は「彼女には、難しいことを要求しても嫌な顔をしない素直さがある。高校3年間で多くのことを克服して精神的にも強くなったと思うが、プロで戦うのは並大抵のことではない。人がしない時に努力するよいうな人として頑張っている」と激励する。村田さんに目標を聞くと、「チームに頼られ、お客さんにプレーで喜んでもらえる選手になりたい。そして、野球をする女の子の目標になれば」と語ってくれた。「大好きな野球ができる」その喜びで彼女の笑顔は輝いていた。